

令和5年度第2回志太榛原圏域地域包括ケア推進ネットワーク会議 会議録

日 時	令和5年11月10日（金） 19時00分から20時30分まで
場 所	藤枝総合庁舎別館2階第1会議室
出席者 職・氏名	<p>【委員】</p> <p>錦野光浩委員、露木義章委員、石川英也委員、高木勇人委員、上野暢一委員、天野雄一郎委員、宮下宝子委員、小原智永委員、高鳥徹也委員、嵐口弘敏委員、岸本史弘委員、鈴木佐知子委員、池ヶ谷留衣委員、小谷幸代委員</p> <p>【市町・県】</p> <p>島田市長寿介護課長 中山和彦、同包括ケア推進課長 大久保勉、焼津市介護保険課長 萩原雅顕、同地域包括ケア推進課長 杉山広晃、藤枝市介護福祉課長 杉村成美 同地域包括ケア推進課長 伊久美佳代、吉田町福祉課長 増田稔生子、川根本町高齢者福祉課長 竹野克彦</p> <p>中部健康福祉センター所長 土屋正純、中部保健所長 岩間真人、中部健康福祉センター副所長 山本泰洋</p> <p>【事務局】</p> <p>中部健康福祉センター 山本福祉部長、森上医療健康部長ほか 県庁福祉長寿政策課高齢者支援班 弓場班長、 地域包括ケア推進班 大石主査</p>

1 審議事項	
(1) 議題 ① 在宅医療等の必要量に対する介護サービス見込量 ② 静岡県長寿社会保健福祉計画志太榛原圏域計画素案	
2 審議内容	
協議事項① 在宅医療等の必要量に対する介護サービス見込量	
協議事項について説明	
説明者 福祉長寿政策課地域包括ケア推進班 大石主査	
資料2、3により在宅医療等の必要量に対する介護サービス見込量について説明	
所長	<ul style="list-style-type: none"> ただいま在宅医療等の必要量に対する介護サービス見込量について説明がありました。委員の皆様、御質問、あるいは御意見等ございましたら、挙手でお願いいたします。
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療等の必要量というところですが、例えば8ページの2025年のところで、島田市は既整備分として介護医療院17、療養病床1、介護老人保

	<p>健施設 452、訪問診療 549 となっているのだが、これは既整備分ということとは既に訪問診療 549 やっているということですか。</p>
<p>大石主査 (県庁福祉長寿政策課高齢者支援班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実数ということになります。
<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既に整備されたということであれば、549 人が既に訪問診療を受けているということですか。よく分からない。
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険の介護サービスの見込量は市町のヒアリングから数字を固めているはずですが。島田市さん、その辺の考え方について教えていただけますでしょうか。
<p>中山課長 (島田市長寿介護課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島田市の場合、訪問診療は当初少なかったのですが、今は増えてきています。これは 2025 年の数字です。
<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点として何人訪問診療を受けている、介護医療院に何人いるというものではないのですか。実際の実数ではないのですか。現時点の実際の実数はどこにありますか。すべて見込みでやっているということですか。言っていること、分かりますか。
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の数字はいかがでしょうか。
<p>大久保課長 (島田市包括ケア推進課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の数字につきましては、現在、島田市民の方が利用されている数字となります。介護医療院、介護老人保健施設は島田市内にある施設の数字ですが、訪問診療は島田市外からの訪問分も含まれます。
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部健康福祉センターのほうで前の計画の数字とか分かりますか。 ・ 露木先生の御発言は非常に重要なことだと思います。この既整備分の数字が分からないとこの見込みの数字が正しいのか分からないと前に進めないように思います。
<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の市町もそうだと思いますが、資料 15 ページの直近の在宅医療等の提供実績のところ、島田市では①2023 年度末提供見込量の訪問診療が 408、②直近実績では 549 でこれは先ほど 8 ページと同じ数字です。549 人が島田市内で訪問診療を受けているということによろしいですか。

所長	<ul style="list-style-type: none"> 資料 15 ページの表の見方につきましては、露木委員からの御発言の通りだと思います。 島田市さんの御説明からすると令和 5 年 3 月の利用実績分となります。しずおか茶っとシステムサービスの数字となります。島田市民の方が島田市内あるいは島田市外からの訪問診療のサービスを受けましたということです。下の出典を確認して頂いて、そこがスタートになると思います。
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> そうすると 2025 年のところでみるのですが、高齢化に伴う需要増ということで訪問診療に 388 が入っています。これはこれまでに 388 人分の基盤を整備しなければいけないと考えてよろしいのですか。これは 2026 年には 394 になっているのですが、現在の 549 のところから、2025 年には 388、2026 年には 394、そうすると 2025 年から 2026 年には訪問診療はこれを単純に引き算して 6 人。6 人ということで考えてよろしいのでしょうか。 今、2 年後に 388 人必要、その次の年に 394 人。ちょっとよく分かりません。
所長	<ul style="list-style-type: none"> 今の違和感のところを確認したいです。これらの数字は算出のソフト、フォーマットに則った数字ではなくて、市町からのヒアリングで聞き取った数字ということでよろしいのですか。
大石主査 (県庁福祉長寿政策課高齢者支援班)	<ul style="list-style-type: none"> 各市町から提供見込量をヒアリングで伺って数字を記載しています。なのでソフトを使ってというものではありません。
伊久美課長 (藤枝市地域包括ケア推進課長)	<ul style="list-style-type: none"> 必要量は県のほうから市町に提供いただきました。必要量は静岡県地域医療調整構想が元になっていると思います。既整備分の所を元に提供見込量を出しています。藤枝市の場合は必要量が 1,443、既整備分が 1,407 なので、それに対して藤枝市の計画の中でどのように提供見込みを算出するかということで、今回見込分を出しております。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございました。そうしますと元々左の必要量は注釈のとおり、静岡県地域医療調整構想からの計算、国の機械的試算を県からもらった、ここは固定されていたということですね。提供見込量のうち既整備分はどこからきていますか。
伊久美課長 (藤枝市地域包括)	<ul style="list-style-type: none"> 藤枝市の場合ですと、茶っとシステムからの数字をいただきまして、既整備分として記載しています。必要量から既整備分を除きました分を今

ケア推進課長)	<p>回見込分として計上しております。</p>
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回見込分がヒアリングで藤枝市が計上したところとなるのですね。 ・ 委員の皆様からこの数字はどのように出てきたのか、疑問がおりになったかもしれませんが、このように数字は計上されています。15 ページのところの表の一番下のところに出典が記載されております。御確認をお願いいたします。 ・ 表の一番左、黄色いところの必要量は静岡県地域医療調整構想から機械的に県から提供された数字、提供見込量の既整備分水色部分は先ほどの15 ページの表から実績の数字を置いています。必要量から既整備分を引きまして不足する部分、緑の部分、今回見込分として市町が算出しています。 ・ 藤枝市以外の市町も同じように算出していると思います。
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。そうすると8 ページを見たときに先ほどちょっと確認しましたが、必要量というのは現時点から2025 年まで比較して必要な量で、例えば島田市の場合、訪問診療 388 というのはプラス 388 人分の基盤を整えなければならない。現時点から考えて介護老人保険施設プラス 417 人分の基盤を作らなければならない。プラス分として作らなければならない。という理解でよろしいですか。
山本福祉部長 (中部健康福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算の方法になりますが、7 ページを見ていただきたいです。在宅医療等の必要量からこれまでに整備された分を除いた量が、今回の見込分となります。下のグラフで2023 年、令和5 年既整備分というくくりがございまして、今からプラスアルファで整備するものではなくて、2025 年に必要な量との差が今後整備が必要という理解となります。
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2025 年に必要な量ではなくて？例えば介護老人保健施設 417 人ということは現時点から、これから 417 人分を整備しなければいけないということではないのですか。 ・ それとさっきの話で訪問診療既整備分で 549 という数字がありますよね。必要量の 388 という数字はどういうことですか。
大石主査 (県庁福祉長寿政策課高齢者支援班)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 388 は国の機械的試算の数字となります。島田市さんで必要な訪問診療の数字が 388 になります。実際訪問診療 549 ということなので、もう必要量は賄えているということになります。
露木委員 (島田市医師会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実数が 549 なのですね。先ほど島田市から話がありました。だから、国の計算は合っていないくて、それ以上に訪問診療がこれだけ既に必要となっている。という理解でよろしいですか。話、違いますよね。言っていること分かりますか。島田市で今実績として、549 あると言っている。

	<p>国は 388 となっている。現時点で国の数字を超えている。ということは国の試算はあてにならないのではないですか。</p>
<p>大石主査 (県庁福祉長寿政策課高齢者支援班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の試算は低く見積もっているというところがあるかもしれません。他の地域と比べていないのですが、実績の数字は必要量の数字と比べると 150 くらい超えています。
<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう一度だけ確認させてください。15 ページの①2023 年度末提供見込量の訪問診療 408 はどういう数字ですか。国からの試算ではないのですか。
<p>大石主査 (県庁福祉長寿政策課高齢者支援班)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これは前回の試算になりますので、3 年前に計画を立てる際に見込んだ数字です。
<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いずれにしろ、現時点では既に実績数が必要量を上回っています。ということは始めに言ったように、国の試算が間違っているのではないか。2025 年の必要量を 2023 年の時点で超えているということですね。必要量という数字自体が何というか、分かりました。ありがとうございました。
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露木委員の御発言のところ、すっきりしないと議論がかみ合っていない気がします。 ・ 表の見方としては説明のあったとおりだと思うのですが、訪問診療について、島田市だけでみれば、必要量に対してもう既に十分だという風に見て取れます。計画の中では、中長期的にはどこを整備してどこを注視していくか、どこに力をいれていくかが重要となってくると思います。島田市については訪問診療は必要量に対して充足していると言えるので、それほど力をいれなくても大丈夫と言えると思います。以上のことがこの表から見えてくるということかと思います。 ・ 委員の皆様も表の見方について、なんとなく釈然としないところもございますけれども、それも含めて何か御意見はございますか。必要量について、他に御意見ございますでしょうか。
<p>錦野委員 (志太医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結論から言うと、訪問診療については、この圏域は必要量を提供量が上回っていることとなる。訪問診療は余剰となっているのか。他のマイナスとなっているところをカバーしている部分もあると思う。 ・ 今後これをどうしたら良いのか。訪問診療をまず増やすべきではなくて、減らすべきなのか。
<p>大石主査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の計算はすべて同じ計算をしていますので、いろいろな地域がある中

<p>(県庁福祉長寿政策課高齢者支援班)</p>	<p>でこの数字が出てきていると思います。数字上はそのように見えてしまっていますが、この圏域ではまだまだ訪問診療の必要な方もいらっしゃるし、訪問診療に熱心な先生方も多い。これだけの実績をあげて頂いている。無理に辞めていただく、下げて頂く必要はないと思います。一概に余剰とは言えないと思います。これからさらに地域でどうしていくかを皆様に考えて頂けたらと思います。</p>
<p>露木委員 (島田市医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先日、中医協のほうでも出たのですが、訪問診療がやり過ぎということはないですか。本来であれば通院できる患者さんも訪問診療になっているということはないですか。今、錦野先生がおっしゃったようにやり過ぎという考えも出てきているのかもしれない。そこのところが、どういう計算でこの必要量を出したのかが重要である。どうして差が出てきているのか。そこらへんは外来にかかる人はちゃんと外来にかかった方がいいという話になっていくのか。そこはちゃんと確認をして頂いた方がいい。でないと実際必要なのだから、国の計算が合わないのでも国の計算を無視というか、考えずに実績をみて、人口動態からみてもっと必要になってくるよね、もっと整備しないといけないよね、となってくると思います。そこらへんははっきりさせないといけないのではと思います。
<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のお話ですが、もっともだなと聞いておりました。最初に資料2で説明をしたときに、コロナ前、コロナ明けというお話がありました。病院に行くよりも先生に来てもらう、訪問診療を希望するといったコロナ禍の中では通常考えられない患者さんの行動が影響している可能性はあると思います。そこが影響しているのかもしれないと個人的には思います。なので、その影響を加味して、本当はそれを標準化した上で数字を見る必要があるかもしれないと個人的には思います。 ・ 計画を立てていく上ではどうしてもデータが必要となりますが、コロナ禍の影響があるかもしれませんが、ただ、訪問診療について、この地域においては仮に病院に行けない状態になったとしても医療機関の方々に訪問で診てもらえるという安心を与えられる地域になっているのだと、私は印象を受けました。これはバックデータがあるわけではありませんので、私がコロナ禍においての人の行動の変容を考えた時にそんなこともあるかもしれないという私の推測です。
<p>高木委員 (榛原医師会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな考え方はあると思うのですが、私のところは僻地と言われる川根町で高齢化率5割くらいです。結構、患者さんの御家族が、本人は車椅子とかで本来だったら訪問診療の患者さんを連れてきて下さってます。外来に来て下さってます。もうひとつの考え方ですが、ここの訪問診療、今549人となっていますが、本来、訪問診療の方が外来に来て下さっているかもしれません。うちも外来で来て下さる方、いらっしゃるま

	<p>す。うちもあまり訪問診療は出来ないので、来て下さると助かります。今は 549 でも今後高齢化が進んで増えていく可能性があります。先ほど減らした方がという話がありましたが、逆に増やすという対応をしていく必要があるのではとも思います。</p>
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。現場の方の御意見でした。診療所の方も大変だということで、外来に来て下さる方もいらっしゃるのですね。
杉山課長 （焼津市地域包括 ケア推進課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼津市の説明です。8 ページの表を見ますと 1,362 が 2025 年の見込みです。中身は療養病床がマイナス 1、訪問診療 102 がありますが、医療機関にアンケートをとりまして、藤枝駅前の駅前クリニック、甲賀病院がやっているところですが、そこが可能だよと言ってくださったので、その数字となっています。 <p>その他介護老人保健施設の 16 は老健の空床からきています。外来は差し引きとなっています。こんな形で焼津市は算出しております。</p>
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございました。私も数字のことがすっきりしないと先に進めないような気がしまして、時間をかけて御意見をいただきました。もしよろしければ、かなり時間が押してしまいましたので、介護サービスの見込量につきましては、今、話題にしてきた内容で数字を置いていくということで、御理解いただければと思います。 ・ 議題の 2 につきまして、説明をお願いいたします。
協議事項② 静岡県長寿社会保健福祉計画志太榛原圏域計画素案について	
協議事項について説明 説明者 福祉長寿政策課地域包括ケア推進班 大石主査 資料 4－1、4－2 により、静岡県長寿社会保健福祉計画志太榛原圏域計画素案について説明	
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただいま説明のあった志太榛原圏域計画素案ですが、事前に御意見を頂いて、その御意見を反映しております。まだ意見を言われていない方や、訂正したところに異議がある方等御意見があらうかと思います。また、課題への対応について、こんな風なことが取組めるのではないかな等、御意見がございましたら、御発言をお願いしたい。忌憚のない御意見をお願いしたい。挙手をお願いします。
中山課長 （島田市長寿介護 課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明をありがとうございました。私の方から意見を出したのですが、各市町とも介護人材の確保は課題であると思っていますし、県も国も全体で課題であるということは十分認識しています。実際に最前線の現場で働いていらっしゃる方も今回出席していただいているけれども県のほうでも新たな介護人材確保のいろいろなメニューを設けていただいて、市

	<p>町に対してこうゆう講座をやるから是非出席していただくように市内の事業所さんに周知してくださいとか、メール等で頂くのですが、実際に市町で人材の確保でやれるところはすごく限られていて、今の説明のなかで志太榛原圏域の中で独自のテーマとして前計画から引き続きやられているということなので、どうしても市町としても県のほうに協力したいと考えています。なるべく各市町から受講していただくように市のほうも努力しますので、そうした講座をどのくらいの人が受講していて、どのくらいの人が実際に就労しているのか、就業に結びついた人がどれくらいいるのか、今後様々な講座を企画して下さると思いますので、是非その経緯、成果を市町の方にも流していただいて、市も協力して参りますので、県と一緒に連携していきたいと思って、意見を出させてもらったのですが、島田市の中でも休業をやむを得ずしている事業所さんもあるものですから、是非、せつかく書いて下さっていると思いますので、協力してやっていきたいと思います。是非、よろしく願いいたします。</p>
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・（福祉長寿政策課に向けて）この点については、介護保険課の介護人材班にお話を伝えていただきたいと思います。介護保険課では介護人材確保の会議があり、その資料もあると思います。市町にその情報が届いていないということかと思います。そこについてはまた、市町さんと一緒に協力してやっていく中で、どういう風なかたちで市町さんに提供するのが良いのか、介護人材を扱う介護保険課へお伝えいただいてよろしいでしょうか。 ・（中山課長に向けて）ということでしょうか。
中山課長 （島田市長寿介護課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。どれくらいの成果があったのか。実際成果があるのかが分からなくて、新しいメニューもあるものですから、いい講座だと思いますから成果も分かりますから市のほうに下ろしていただき、是非教えていただきたい。
弓場班長 （県庁福祉長寿政策課高齢者支援班）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとうございます。分かりました。伝えます。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他にいかがでしょうか。
杉村課長 （藤枝市介護福祉課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画策定に関連して、一点御確認をさせていただきたい。計画の中の施設整備を検討するに当たりまして、近年高齢者の住まい等の受け皿になっている有料老人ホーム等の情報提供について、県の方から情報提供いただけると伺っておるのですが、市のほうでも計画策定が大詰めになっておりまして、藤枝市の方でも有料老人ホームの定員数、入居者数等を

	<p>計画の中に記載していく予定でありますので、情報提供の時期について、御確認をさせていただきたい。よろしくお願いいたします。</p>
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・（福祉長寿政策課に向けて）ヒアリングの中でそういうお話があったのか。
杉村課長 （藤枝市介護福祉課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒアリングの際にもお話をさせていただいたところで、国の通知では8月中旬までをめどにお示しいただけるとなっています。今のところ情報の提供をいただいていないというところです。次期について、こちらの計画策定の都合もありますので、御確認させていただければと思います。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒアリングの時はどこが伺っているか。
弓場班長 （県庁福祉長寿政策課高齢者支援班）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私どもと介護保険課です。そのあたり、確認をしてお答えしたいと思います。
杉村課長 （藤枝市介護福祉課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ よろしくお願いいたします。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護人材に関しては事業所の方とか、あるいは実際にサービスを受けている方もいらっしゃいますし、何かその点で今日は県庁の職員もおりますし、介護保険課の職員は来ていませんが、先ほどのように質問とか、今回の議題は圏域計画の素案についての御意見なのですが、今みたいに直接意見を述べたいとか要望として承っても良いのではないかと私は思っておりますが、いかがでしょうか。 ・ ないようでしたら、御意見を頂く用紙をいつものように入れておりますし、今後県民の方からもこの素案につきましてはパブリックコメントで御意見をいただくような形でやっていくこととなっておりますので、今日はここで、一旦締めさせていただきます、次に残っております報告事項について、在宅医療圏の設定について報告がございますので、県の方か

	ら報告をお願いいたします。
報告事項 在宅医療圏等の設定について	
<p>報告事項について説明</p> <p>説明者 福祉長寿政策課地域包括ケア推進班 大石主査</p> <p>資料5により、在宅医療圏等の設定について説明</p>	
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告事項ということで、在宅医療体制を整備するために大勢の方の御意見を頂きながら進めているという内容の報告ですが、在宅医療圏の設定について、報告がありました。これは今日議論している長寿社会保健福祉計画にも記載されますか。
大石主査 (県庁福祉長寿政策課地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状では素案に記載されています。ただ、今後の検討状況に左右されますので、まだはっきりと記載されますということはお伝え出来ません。先ほど私の方で、説明いたしました資料の4-1の在宅医療介護連携のところに医療圏を含んで記載していきたいと考えております。
所長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういう流れで資料の17ページにあるとおり、今後地域医療協議会、医療計画部会、パブリックコメントのスケジュールとなっております。この会ではそういうことを承知してればよろしいでしょうか。以上の通り御報告させていただきましたが、この在宅医療圏について御質問ございますでしょうか。
伊久美課長 (藤枝市地域包括ケア推進課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の単位で在宅医療圏を定めた場合に、在宅医療において積極的役割を果たす医療機関の設定は必要となりますか。藤枝市は二次医療圏の中にある医療機関というのが在宅医療支援病院が、藤枝市にはないのですが、例えば在宅医療圏が市町に設定された場合、市町においてそういった病院を設定する必要がありますか。この考え方が分からないので、それだけ教えていただければと思います。
大石主査 (県庁福祉長寿政策課地域包括ケア推進班)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点を市に置いた場合ですか。在宅医療圏の考え方を整理したときに在宅医療圏の中には在宅医療支援病院を置く必要があるかどうか。 ・ 医療圏の中に、積極的医療機関を設定することとなっております。積極的医療機関は診療所でも可能です。

<p>所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のところ確認をしていただけるということです。他に御意見ございますでしょうか。今日は既に私に与えられて時間は迫っておりまして、いつもの通り、意見を記載していただける用紙を資料に同封してございます。今日、御発言出来なかった、あるいは今日の説明を聞いてあれっと思ったことがあれば、こちらの意見記入用紙へ記載して、15日（水）までに中部健康福祉センターまでに提出していただければと思います。先ほど少しお話をしましたが、前回から意見を頂いて、いろいろ修正を掛けた圏域計画素案については12月から1月にかけて県全体の計画と併せてパブリックコメントを考えております。県民の皆様からも御意見をいただくスケジュールとなっております。時間がオーバーして申し訳ございませんでした。進行のほうは事務局にお返しいたします。
-----------	---